



港区立南山幼稚園

Minato City, Nanzan kindergarten

# 2月園だより



## 自分で考える

先日、年長組の子どもたちに「もし、家の人と出かけているうちにいつの間にか迷子になってしまったら、どうする？」と質問しました。いろいろな答えが返ってきて面白いなと思いました。

しばらく「うーん」とうつむく姿や、どこか遠くの方を見ているまなざしで、自分の考えをまとめるまで真剣な表情で、「考えて」いました。私も考えが出てくるまで待っていました。「わからない」という答えや黙ってしまうという子どもは誰もいませんでした。

教育目標に「よくかんがえる子」を掲げ、子どもたちが主体的に遊びや生活に取り組めるように、自分で考える場面を大事にしてきました。

私たち大人は、つい待てずに先回りして手を出したり言葉を出したりしてしまいます。しかし、時間がかかりながらも子どもが自分で考えてやろうとしているときには、ぐっとこらえて「待つ」ことをおすすめします。園では「どうしたらいいか」を自分で考えさせたり、「友達はどう思っているのかな」と友達の考えも聞いてみるように促したりして、自分で解決できるように関わっています。多少時間はかかっても「自分で考える」ことで得られた結果が経験となり、のちに力となって次の経験に生かされるからです。大人も同じようなことが言えるかもしれません。

冒頭の問いに対する子どもたちの考えは「警察に行って聞く」「周りの人に自分が迷子になったと言う」「高い木に登る、木がなかったら背伸びする」「家に帰る、ママが帰ってくるのを待つ」などでした。その先を聞いてみたくくなって、「〇〇がなかったら？」と問い返して、ついやりとりを楽しんでしまいました。

様々な経験を通して、進級、就学に向けてどの学年も一層自立心が高まってきています。子ども自身が「考える」時間を上手につくって、大人はその時間を待てる心の余裕をもちたいですね。

### ♪アート ギャラリー♪

「もうすぐ立春」  
鬼のお面をつくりました

【3歳児】  
絵の具で輪郭を描いたあと、角や目や鼻などを貼りました。



【4歳児】  
色画用紙に鬼の輪郭や角、目、鼻、きばなどを描き、はさみで切って貼りました。



【5歳児】  
大きい画用紙に絵の具で鬼を描いたあと、割ピンで手や足が動かせるようにつくりました。



